

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290200074		
法人名	社会福祉法人 伯医会		
事業所名	ふるさと母里 グループホーム2		
所在地	島根県安来市伯太町東母里482-2		
自己評価作成日	平成29年4月8日	評価結果市町村受理日	平成29年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成29年4月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人は色々なものを背負って生きています。仕事や責任、炊事や子育てなど。それを加齢とともに少しずつ若い者に託して無くなっていく。当然のことではあるが、その背負っているものがあるからこそ人は頑張る生きれるのではないのでしょうか。
ご利用者を巻き込んだ支援、意欲的に行動を起こせるような引き出し力、他者から必要とされ、存在意義を実感する。そんな気持ちを事業所でも味わっていただき、活動的に生きていく。それが人の尊厳を守るという事でもあり、自立支援だと考えます。
そのような考えで、日々の支援を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務室に掲示し、それをベースに日ごろのケアにつなげようとしている。	新人研修ではマニュアルに沿って介護に対する考え方を伝えることとしている。日頃の業務の中でもいろいろな場面で話をするようにしているが、全員が共有するためには伝え続ける必要性を感じている。	より良いサービス提供の為に、職員の意識統一に取り組んでいただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会行事にも参加したり、施設行事にも参加していただいている。	近隣の20軒くらいの自治会に加入し、一員としてとんど焼きや清掃活動、お祭りなどの地域行事の他、地区総会にも参加している。反対に地域の方が事業所の会議に出席するなど交流を増やしてきている。小中学生の職場体験の受け入れもやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	意図的に啓発活動や地域貢献活動を行ってはいないが、地域の行事やイベントに積極的に出向くことで、認知症の方の生活の豊かさや、能力の高さを知ってもらう機会としている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回の運営推進会議で事業所の取り組み内容を報告し、意見交換も行っている。	隣の小規模と合同で開催している。家族の参加は多くはないが、地域からは自治会長、民生委員、交流センター長、協力医の他に行政の職員、利用者代表の参加で開催している。施設の運営状況等を伝え、意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を依頼したり、運営上で疑問に思う事や相談などを保険者や包括と行っている	運営委員会には介護保険課や包括から毎回参加を得ており、事業所の運営方針についても理解を得るよう、意見交換は積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	接遇研修で勉強し理解した上で実施している。	内部での研修を行い、いろいろな場面を想定して検討したり拘束のないケアを目指している。開放的な建物でもあり、掃出しの窓も多く、玄関だけではなくどこからでもすぐ外に出られるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会の研修で勉強し、普段から意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会の研修で勉強している。必要があれば提案出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者が説明を行い、事業所で出来る範囲、退去の条件等の重要なポイントは特に丁寧に説明するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員による訪問を行い、ご利用者のいけんの聴取、ご家族に対しては相談・苦情窓口の情報を契約時には説明し、毎月の配布物でも意見の聴取を呼び掛けている。	請求書送付の際、担当から利用者の様子を伝えるようにしている。写真と文章で日頃の様子が良く伝わると好評。面会時やカンファレンス等でも意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	労働者の代表が代表者や管理者に、意見や提案が言えるようシステムになっている。また、全職員と年間2回の個人面談も実施している。	職員の意見を引き出すために以前は自己評価に取り組んでいたが、あまり効果を感じていない。法人が取り入れているストレスチェックを実施したり、面談で話したりといろいろな試みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の経営状況や世間の動向を踏まえて職場環境の改善についても話し合うような会議を代表者と管理者が毎月開催している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チームリーダーと人材育成について情報共有しながら、OJTの実施、事業所の内部・外部研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同種別の他事業所に実習という形で現場見学に行かせてもらった。今後も関係を保っていきたいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接で要望等はお聞きしているが、それが全てではないため日々の関わりの中で新たな情報を共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークで家族様からの意向をお聞きすると同時に施設側のケア方針も説明し理解をいただくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを希望された段階で「入居」を望まれています。状況に応じて併設している小規模を勧める場合もあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上で毎日行う家事全般、利用者様と一緒にいき、互いに協力しあう関係性はできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族によって面会数や催し物の参加には差があるが、近況報告は生活記録を通して毎月行っている。緊急性のあるものに関しては電話で対応し協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの情報や新たな情報からなじみの人や場所に出向く支援を行っている。	自宅訪問や神社への初詣、地域のお祭り、文化祭、買い物など、以前の顔なじみに出会えるような場所に、できるだけかけるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの役割が重ならない様、トラブルにならないよう気を配るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も事業所側から継続的にご家族等に対して相談援助や支援は行っていない。 「またいつでもお気軽に顔を見せに来てくださいね」とお話しはしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話の中から希望や意向をくみ取り、個人の経過記録や共有ノートに記録、または会議で話すようにしている。	普段の会話の中で出た言葉、意見を重視するようにしている。全員一緒にレク等に取り組むのではなく、個々が主体的に動ける場面をできるだけ作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様や本人、サービス利用先にて情報収集を行っている。入居後はそれ以外の親戚や知人友人の方などからも情報を得てケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝昼のミーティングで現状を把握し、その日のフロアマネジャーが中心となって一日の過ごし方を見極め、日報や個人の経過記録に情報をおとすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と作成担当者が中心となってケアプランとモニタリングを行っているが必要に応じてケアカンファレンスをチーム全体で行っている。	モニタリングは月に1回チェックし、記録に残すようにしている。介護計画については、老々介護も多く、担当者会議への参加はあまり多くはないが、利用者本人や家族関係者の思いが反映できるよう、事前の意見収集を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	大まかな情報は日報や共有ノートに記載し、具体的な内容については個人の経過記録に記載したりミーティングや会議で共有し見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて併設の小規模への移行もありうるが現在そうした事例はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気分転換や希望により近くの喫茶店やコンビニに出掛けたり、季節ごとの祭りや行事、花見に出掛けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様が希望されたかかりつけ医による定期受診や訪問診療、急な体調不良に対する対応ができています。	かかりつけ医を確保しており、定期に加え夜間や緊急時の対応も可能になっており、家族関係者の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	直接口頭で伝えたり、日々の日報や記録により伝達し協働を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時においても定期的にお見舞いに行き交流を図り、医療機関との情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族と相談し、意向があれば看取りは行う方針ではある。その際には事業所で出来る限界点をはっきりさせ、納得して頂いたうえで、実施していく。	利用者や家族の思いを重視し、ここでできる範囲内で今後も看取りに取り組んでいく意向。経験の少ない職員もいるため、個々のレベルアップ等体制づくりの必要性を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、そのような場合を想定した研修も行っているが、実際に起きた場合とまどう職員は多いと思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定の方針訓練は消防署の職員を交えて定期的に行っているし、地域の協力体制も確保はできている。その他の災害については施設独自で実施した。	それぞれの災害に添ったマニュアルを作成して訓練を実施している。他の場所への移動等地域の方々の協力は難しい場合も多いので、小規模や事業所に近い職員の連携で取り組むこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にされた声かけや対応を心がけているが一部に問題と思える声掛けや対応が見られることがあるため改善を図るように努めている。	内部での接遇研修を行い取り組んではいるが、言葉の乱れが利用者にも与える影響の大きさを覚える場面もあり、注意をするようにしている。やりたいことは制止せず尊重するよう見守りを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決定できるよう具体的な選択肢を挙げたり疑問形での言葉掛けをするようにしているが、場面によっては職員本意のケアになることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースや希望を大切にその人らしい生活ができるよう支援しようと心がけてはいるが状況によってはそれができないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗顔や整髪など気を配っており、乱れや汚れがあるときには整えていただいたり、援助をするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りには準備から片付けに至るまで全てご利用者様に関わっていただき食べる喜びと満足感を味わっていただいている。	栄養士が作成した献立が基本パターンとしてあるが、ひと月のうち1週間は自由献立として食べたい物を買って作るようにしている。できるだけ地産地消で地元の食材を多く取り入れる意向。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎日記録に残し栄養状態の把握はできている。又食事形態や内容についてもその人の現状に合わせたものを提供している。水分についても必要な場合はチェック表を作成し十分な量が確保されるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはほとんど行えていないが、一日の終わりには必ず念入りな口腔ケアを促すようにしている。又週一回は義歯洗浄剤で消毒除菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方がトイレでの排泄をされており、今後はハビリパンツから布パンツへの移行も視野に入れ取り組みをしようとしている。	トイレでの排泄を基本として、時間を把握して声かけを行っている。入院時オムツ使用でも、退院後にはパンツへ移行し、パット等の使い分けで濡れが少なく不快感が減るよう、個々に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時の牛乳の提供や生活リハビリを行う事で自然排便の効果を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に合わせた支援を行っており毎日入浴されている方もおられる。しかし中には「入らなくていい」と拒否される方もいらっしゃるため必然的に入っていただくため曜日を決めて支援することもある。	重度な方は小規模の機械浴が利用可能であり、小さな浴槽も利用可能である。元気な方で毎日の入浴を希望する方もあり、見守り対応としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなときにいつでも休める状態になっており、中には自室の鍵を自己管理されている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行っておりスタッフは配薬と内服介助を行っている。薬の内容については十分に理解はできておらず、たまに落薬事故が起きている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の今までの生活歴やご希望に合わせた個別の楽しみや役割の支援を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の内容によってはその日あるいは次の日や別の日に実施している。家族様からの要請も積極的に引き受けている。	外が気になり落ち着かない方には、散歩や草取り、テラスでの食事などを日常的に行っている。車の好きな方は小規模の送迎に同行したりと、外に出る機会を作るようにしている。時間のかかる外出行事の計画もあり、勤務調整等で実施に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理したいという方もおられ、自分の意志で嗜好品の購入をされることもあるが高額については施設で管理させていただいている。又管理はできないが清算時に自分で支払いをするという支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もおられ必要なやり取りはできる方もいる。それ以外の方は特に希望もされておらず、毎月送らせていただいている生活記録で様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日の中で一番長くおられる食堂においてはテーブルの配置や席順に配慮し不快や混乱のないようにしている。季節ごとの飾り付けは作成時点からご利用者と一緒に行っている。	2つのグループホームが左右対称に建っており、中央の仕切りも開け放っており、天井も高く大変開放感がある。窓も掃出しで広く、外も良く見えるし周りに草木も植えてあり、常時季節を感じる事ができる。木目調で雰囲気の良い落ち着いた建物になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に何ヶ所かソファやテーブル席を設け、気分転換や休憩をとる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様と家族様の希望に合わせた居室作りをしているが、必要な物品に関しては新たに購入されたものが多い。	ベッド利用者が多いが、中には畳に炬燵を置き、自分で過ごしやすいように考えている方もある。利用者に合わせて動きやすく過ごしやすいように検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの部屋(トイレ、浴室含む)に表札を掲げ、それがどこであるのか明示している。		